

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人 花木庭会

目 次

I	基本理念	1
II	令和4年度基本方針	1
III	令和4年度事業目標	1
IV	概要	2
V	評議員会、理事会の開催状況	8
VI	行事実績(令和4年度)	9
VII	ボランティアの受入状況(令和4年度)	9
VIII	職員配置の状況	10
IX	利用者の状況	10
X	利用者の日課	12
X I	利用者の通院状況	12
X II	苦情解決	13
X III	事業報告の附属明細書	13

I 基本理念

- 1 障害者の人権と尊厳を守り、自立と社会参加の支援を行う。
- 2 福祉事業を通じて地域社会の発展に貢献する。
- 3 ご利用者様、職員、法人の三者全ての安心と満足度を高める。

II 令和4年度基本方針

- 1 ご利用者様へ、常に真心を込めて安心と安全を提供する。
- 2 地域との交流を活発にし、地域から必要とされる施設づくりを目指す。
- 3 職員の自己研鑽による能力アップに努める。
- 4 技術力の向上により、よりよいサービスに徹する。
- 5 社会的ルールの遵守(コンプライアンス)を徹底する。

III 令和4年度事業目標

1 生活相談

- ① 利用者の人権尊重、権利擁護。
- ② サービスの質の向上。
- ③ 相談支援事業を通じて地域社会へ貢献する。
- ④ 入所待機者の確保

2 生活支援

- ① 利用者の個人ニーズに応じた個別支援に取り組む。
- ② 職員としての質の向上。
 - ・利用者に寄り添い、相手の立場に立った思いやりのある言動を心がける。
 - ・技術の向上及び障害の特性に応じた心のサポートを学ぶ。
 - ・職員間の連携を図り、安心・安全な支援を提供する。

3 医療

- ① 各部署との連携。
- ② 早期発見、早期治療。
- ③ 感染予防に努める。

4 総務

- ① 職員研修によりスキルアップを図る。
- ② 防災訓練や行事等をとおして、地域とのつながりを密にする。
- ③ 安全運転の励行。
- ④ 情報管理の徹底に努める。

5 給食

- ① 衛生管理を重点的に行う。
- ② 利用者の個人ニーズに応じた栄養ケア支援に努める。
- ③ 調理技術の向上(高齢化、重度化対応)。
- ④ 季節の行事を大事にし、手作りで家庭的な食事を提供する。

IV 概要

令和4年度は、花木庭会の法人運営においては、評議員会は2回開催され、決算報告、事業計画及び収支予算の5議案について審議がなされた。

理事会は3回開催され、清掃業務委託やパソコンソフトの入札、役員等賠償責任保険の契約及び規程の改正など22議案について審議がなされた。

監事会は5月に定例監査が実施された。また、評議員会、理事会に出席された。

インターネットによる公表は、定款、役員名簿、評議員名簿、役員等報酬規程及び5年間の決算書を当法人のホームページに掲載している。また、現況報告書、計算書類等及び事業所情報を社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムに届出し情報公開をしている。

施設・設備の整備では、正門前の侵入路は車両が通行しにくい状況であったため、正門拡張工事を行った。

利用者の衣類の洗濯に使用している平成20年度購入の全自動洗濯脱水機と平成18年度購入の業務用乾燥機をそれぞれ更新した。また、テレビ視聴について、電波環境の問題で映りが悪くなる時があったため、全館でケーブルテレビを利用できるようテレビ共聴設備の改修を行った。

栄養士が使用している給食献立ソフトは平成12年度から使用していたが、使いにくいところもあったため、買い替えにより献立作成や発注作業がスムーズに進むようになった。業務用冷蔵庫は、平成4年度から使用していたが、故障のため買い替えた。

職員配置の状況としては、年間を通して全体の平均配置数が48.3人（常勤換算46.1人）と前年度に対して平均配置数で2.1人（常勤換算2.1人）減少したが、生活支援員の平均配置数は29.7人（常勤換算27.5人）で前年度と同数であった。

年度内に2人の採用を行うことができたが、退職者が4人となり、年度末での職員数は前年度の50人から48人となった。

全職員のチームワークにより利用者へのサービス提供を行うことができた。

利用者へのよりよいサービスを提供するためには、職員の資質の向上が欠かせないものとなるため、施設内研修を定期的に開催してきた。施設外での研修会は、集合研修は県内研修会や全国大会などに参加することができた。感染拡大防止のため多くがオンラインでの研修となったが、できる限り参加してきた。

令和4年度も1年を通して新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための取り組みとして、施設内の消毒や換気の徹底を行ってきた。利用者や職員の体調の変化にもいち早く気づけるようにと検温チェックも徹底して行った。

12月に施設入所者2人が新型コロナウイルス感染症に感染する事例が発生した。施設としては、外出行事等は控えており、また外部との接触もない状況であるため、感染経路としては、職員を經由してのものと考えられる。この2人の利用者については、入院するまでの間、施設で対応することとなったが、その対応を行った職員1人が感染してしまった。施設内をエリア分けし、感染予防の対策を講じての支援であったが、感染を防ぐことができなかった。新型コロナウイルスの感染力の強さに改めて恐怖を覚える事例であった。

しかし、クラスターまで至らず収束できたことは良かった。

今年度は、職員自身が感染し自宅療養となるケースや、家族が感染者となることで自宅待機となるケースが35件あった。その間、全職員で協力し、勤務調整や、時間外勤務での対応を行いながら何とか事業を継続することができた。

令和5年2月以降は、利用者、職員ともに新型コロナウイルス感染症との関わりは起きていない。

新型コロナウイルスワクチン接種については、4回目接種を7月から、5回目接種を12月から実施し、利用者・職員ともに施設での予防接種を希望した人は終了することができた。

通所事業、短期入所、面会については、新型コロナウイルス感染防止対策のため、12月5日から14日まで10日間の受け入れを中止した。

利用者が楽しみにされている園外訓練、ふれあい旅行などの外出行事はできなかったが、11月8日から29日までドライブを兼ねて西九州新幹線開通に伴い嬉野温泉駅のホームで新幹線見学や、1月10日から31日まで近隣の琴路神社へ初詣参拝を実施した。3月27、28日には庭木ダム周辺の桜の花見の車中見学を行った。外出行事を取り入れたことにより利用者には大変喜ばれた。

利用者の外出は年間を通して受診等を除き不要不急の外出を禁止とした。また、夏季・冬季帰省についても中止とした。

面会は、面会者の範囲や人数、面会時間の制限を設け、前日までに予約を受けて感染対策をしながら実施してきた。

ボランティアの受け入れは、利用者との触れ合いはできないため、利用者に関わらない部分での受け入れのみとした。

1 生活相談

利用者の権利擁護、人権尊重の観点から日々の支援において、日頃から相談内容を傾聴し、寄り添い支援することを心掛けた。課題が見つかった時点で速やかに改善に努めた。

利用者は、重度化の傾向にあり、介護の度合いが高くなった利用者については、障害支援区分も高くなり、きめ細やかなサービスが必要となり、支援内容を変更することがあった。

入所利用者は、年度中に6人に入所してもらうことができたが、退所者が4人となったため、年度末では47人にとどまった。

入所待機者については、行政機関や医療機関等との連携を図り、入所待機者の確保に努めたが、入所待機者の中から入所に繋がったため、年度末での待機者は13人で前年度と変わらなかった。

2 計画相談

相談支援センター鹿島療育園では、佐賀県の南西部地区を中心に計画相談を行ない、障害種別による制限はなく、身体・知的・精神すべてにおいて対応した。

ご本人やご家族のニーズに応じたサービス提供に努め、住み慣れた自宅・地域において安心した生活が送れるように支援した。

杵藤地区自立支援協議会・相談支援部会等の会議に参加してきたが、今年度も感染拡大防止の影響で中止となるケースもあった。

市町より依頼があった計画相談については、速やかに対応し、令和4年度中に、サービス等利用計画は入所者25件、在宅者24件の合計49件であり、その内、新規での利用計画策定は4件であった。また、利用計画に沿ってサービスが適切に提供されていることを定期的に確認するモニタリング（継続サービス利用支援）は159件で前年度より3件少なかった。なお、障害児サービス等利用計画の策定実績はなかった。

3 生活支援

入所者の延べ利用者数は 15,994 人で前年度の 14,928 人から 1,066 人増加した。

これは、利用者への入院日数が、前年度の 1,485 日から 418 日と大きく減少したことが影響し、稼働率は 84.3%となった。

事業目標である利用者の個人ニーズに応じた個別支援への取り組みについては、利用者の主体性を尊重し、個人やその家族が望まれている目標を個別支援計画に反映し日々の生活の中で取り組んでいる。個人のニーズに応じるためには計画上のみの支援ではなく、利用者の小さな思いにも耳を傾け、常に情報の共有を継続している。現状に課題点が見つかれば振り返り、改善、その後の対応策へと繋げて支援の充実を図ってきた。

職員の質の向上については、利用者の高齢化・重度化が進む中、生活支援員の中に認定特定行為従事者（喀痰吸引研修課程修了者）が現在 5 人在籍し、医療的ケアが求められる支援への対応にも安心を得られてきた。

これからも、利用者へ寄り添うことで安心を得ていただけるよう、言葉を超えた支援を提供していきたい。

4 生活介護（日中のみ）

通所事業の年間の延べ利用者数は 175 人で前年度の 357 人から 182 人減少し、一日当たりの利用者数の平均は、0.6 人となり、定員 4 人での稼働率は 16.3%となった。年度末の実人員は 3 人と前年度と同じであった。利用者のうち 1 人は入所利用者となられている。

通所利用者の支援においては、入所利用者とはほぼ同じ条件のもとで支援を展開し、ご本人、ご家族のニーズに応じた個別支援計画を策定し、サービスの向上に努めてきた。

ご家族とは送迎のわずかな時間に顔を合わせ、言葉を交わすことによって情報が共有され、信頼関係が構築されていたことにより、緊急時の対応も理解と協力を得ることができた。

5 短期入所

年度内の利用者の実人員は 4 人で合わせて 175 日の利用で前年度の 74 日より 101 日増加となった。利用者のうち 1 人は入所利用者となられている。

個別支援計画の策定は必要ないものの、利用者の希望される支援については、主体性を尊重した支援を行った。

6 機能回復訓練

医師及び理学療法士の指示を受け、個別支援計画への取り組みへと繋げ、現状の身体機能、生活能力を維持し日常生活を営むための訓練として取り組んでいる。

訓練の実施状況は、職員数が少ないときでもグループを小規模化することや、居室にて行う事により、訓練が実施できるような環境を確保するように努めた。

今後も参加率の向上を目標に利用者の健康維持、機能維持に努めていきたい。

7 サークル活動

○手芸サークル

感染症拡大防止、外部講師や業務の都合により中止する月もあったが、外部講師による押し花を年 4 回（4・5・6・7 月）、職員による活動を 2 回（11 月・1 月）に実施した。

各月 14 人程の利用者が参加されている。

感染症予防に努めながら、講師や職員の介助を受けながら四季折々の押し花を使い、希望に沿った様々な作品を制作、完成された作品を手に取りとても満足そうにされている様子が伺えた。職員による活動では、「フラワーアクアリウム」や「折り紙での生け花」の制作を行い、利用者の満足度も高かった。

作品は手芸サークルの作品として園内での展示や作品展への出展も行っている。

○音楽・カラオケサークル

外部講師による音楽サークルは感染症拡大防止、講師の都合により中止した月があり、年9回（4・5・6・7・8・10・11・2・3月）の実施であった。

四季をテーマとした曲や利用者のリクエストによる曲をピアノで演奏してもらい、参加者全員で歌うことにより歌うことの楽しさを感じられている。15人程の利用者が参加されている。

カラオケサークルは感染症対策に努めながら、毎月2回実施した。

歌う事が好きな利用者の参加で、毎回15人程の利用者が参加されている。

好きな歌を歌ったり、他の利用者の歌に合わせて手拍子をしたり、口ずさんだりするなど和やかな雰囲気の中で実施できており、利用者の楽しみ、気分転換にも繋がっている。

○園芸サークル

園芸サークルとしての活動は、天候の影響や業務の都合により年3回の実施にとどまった。

運動広場周辺の花壇は、車椅子での作業ができるように高めになっているため、興味のある利用者が、花や球根の植え込みや除草等余暇時間に取り組み、また支援員も定期的に除草作業や花壇の手入れを一緒に行ったことで、色とりどりの花々が園庭を訪れた人の目を楽しませてくれた。

○生活サークル

感染症対策を施しながらゲーム・習字・紙芝居・貼り絵等を行い、またボッチャを計画し実施した。

毎月実施することができ、各月15人程の利用者が参加された。

新型コロナウイルス感染症の影響により外出や外部との交流が制限されている中で、活動内容を通して利用者間の交流が図られ、また大きな声を出したり、体を動かしたりと楽しんで参加されている様子が伺え、利用者のストレスの軽減につながっていると思われる。

利用者が楽しんで参加していただけるよう活動内容を計画していきたい。

○編集サークル

年4回発行している「はなこぼ新聞」では、利用者の生活状況や行事等の様子、ボランティアとの交流の様子、利用者の感想等をご家族や関係団体等にお知らせすることができた。より良い「はなこぼ新聞」になるよう、担当職員や利用者が役割分担しコミュニケーションを図りながら取り組んだ。

○フラワーアレンジを楽しむ会

感染症対策に努めながら、6月に元職員のボランティアを講師として実施し、20人の利用者が参加された。利用者に花材を自由に選んでもらい、花を入れる位置を確認しながら生け、また講師のアドバイスを受け作品が出来上がっていくことに利用者も満足されていた。

12月に予定されていた活動は新型コロナウイルス感染症の影響により急遽中止となったが、講師が制作された作品を希望者に配布し、受け取った利用者は大変喜ばれていた。

8 苦情相談

随時受付による苦情の申し出が6件であった。内容は、支援での不手際、配慮不足など職員に関するものが4件、同室利用者の夜間の大声など利用者に関するものが2件あった。苦情については、概ねその場で回答し、検討が必要なものについては、翌月の利用者懇談会において回答を行った。

今後も苦情について傾聴し、速やかな解決策が望まれる。また、更なる相談サービス提供者としての職員の資質の向上が求められる。利用者間の苦情については相互理解が必要であり、苦情が軽減するような職員のメンタル面での支援も必要と思われる。

9 医療

利用者の延入院日数は、418日で前年度の1,485日より1,067日減少した。これは1ヶ月以上の入院者が前年度の16人から5人へと減少したことが大きいと思われる。

退所者は4人で、死亡による退所が3人、長期入院による退所が1人となった。

通院は、年間1,113人で前年度より87人増加した。内訳は訪問歯科が414人と一番多く、次いで内科、精神科、外科、泌尿器科が続き、通院に多大の時間を要している状況であり、既往歴で再発する病名では、褥瘡、腎臓疾患、皮膚疾患が多くあった。また、精神疾患による通院者は12人を数える。

泌尿器科受診者は10人となり、うちバルーン留置者が6人、自己導尿が2人である。高齢化に伴い嚥下機能の低下などもみられるようになり、喀痰吸引必要者3人と医療行為が必要な利用者もいる。

食事中のムセ・咳込みなど嚥下力の低下もみられ、水分トロミ・刻み食・ミキサー食の提供者も増加し食事介助者も増加傾向であり、誤嚥リスクが高い利用者が増えているためその都度嚥下検査を行い対応している状況である。

障害の重度化に伴い、発症から悪化するまでのペースも早く、また、本人の訴えも乏しいこともあり、日頃の様子との比較や、健康チェックを行うことで、速やかに対応した。

協力病院として犬塚病院、納富病院、織田病院、嬉野温泉病院、高木眼科へお願いすることが多いが、病院では、コミュニケーションがとりにくく、また、介護の度合いで入院できず通院治療となるケースも見受けられた。

11月には利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を行い、インフルエンザの罹患者は発生せずに済んだ。

12月にはコロナウィルス感染症に2人が罹患したが、入院し治療を受けた。

今後も、嘱託医や他職種間との連携を密に利用者への支援を行っていきたい。

10 給食

利用者の高齢化・重度化傾向により、よりきめ細やかなサポートが必要となる中で、医療・生活支援・給食が連携して一人ひとりに応じた食事形態で提供し、栄養ケアマネジメントを策定し、生活機能の維持改善の支援を行った。

食事形態では、主食は、普通・二炊き・全粥・全粥ミキサー食の4段階とし、副食の切り方は、普通・一口大切り・荒刻み食・刻み食・ミキサー食に分けて提供した。刻み食で誤嚥リスクがある方には、主食以外をあんかけで提供した。

また、療養食として低脂肪食・減塩食・減塩低脂肪食・糖尿病食に取り組み、利用者一人ひとりの身体状況に合った食事内容で提供した。

食事提供数は、全利用者合わせて年間 48,476 食で、毎食の平均では 44.3 食となった。

嗜好調査や給食座談会を毎年行い、調査結果を基に主食、主菜で嫌いな食材やアレルギー食品は、代替食にて提供することで、満足度を上げ、食事摂取量向上につなげ、体力維持・機能低下防止に努めてきた。また、限られた予算内で季節の物や手作りデザートを提供し、利用者からも好評を得ている。コロナ禍で外出できない利用者には、楽しんで食べてもらえるように、食堂の飾り付けを季節ごとに行っている。

安全面では「食中毒防止」「異物混入防止」等の衛生管理を徹底し、手洗い消毒と生野菜の処理、機械器具のアルコール消毒等の基本的対応を最重要ポイントとしてあげ、冬だけでなく夏場にも発生するようになった「ノロウイルス防止」など、1年間を通じて「食中毒防止」「ウイルスの感染予防」に努めることで、衛生管理の目標を達成し、安全・安心に食事摂取をしてもらうことができた。

11 防災

今年度の防災訓練は、感染拡大防止のため、12月が実施出来ず、年間11回の実施となった。

防災訓練では、火災時に必要な初期行動及び利用者の安全な避難誘導を職員が確実に実施できるよう繰り返し行っている。特に夜間は勤務する職員が3人となるため、職員間の連携が求められ、より速やかで安全な避難誘導ができることが重要となる。年間で、夜間を想定しての訓練を10回実施し、1回は昼間を想定しての訓練を行った。

鹿島消防署等と共同訓練である総合防災訓練については感染拡大防止の観点から今年度も実施出来ず、通常訓練とした。

例年実施してきた全職員を対象とした夜間の招集訓練については、実施できなかった。新型コロナウイルス感染症に関連する職員の休暇が年間を通してあり、少ない人員で職務を遂行する職員の負担を考慮し、開催時期を模索していたが、状況が改善せず、実施に至らなかった。

年々、利用者の方も加齢等による身体機能の低下がみられ、重度化が進んでいる。皆、避難誘導の際に何らかの支援を必要とする方ばかりであるため、利用者の身体状況に合った誘導方法を正しく把握しておくことも大切になってくる。

今年度実施した防災訓練での避難誘導時間は、平均で14分02秒だった。

怪我や事故等が無いように安全で確実な避難誘導ができるよう、今後も引き続き訓練を行っていく。

V 評議員会、理事会の開催状況

<評議員会>

第1回

開催日	令和4年6月14日
議案	令和3年度決算報告書(貸借対照表、収支計算書及び財産目録)(案)の承認について

第2回

開催日	令和5年3月24日
議案	令和4年度法人本部拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 令和4年度鹿島療育園拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 令和5年度事業計画書(案)の承認について 令和5年度資金収支予算内訳表(案)の承認について

<理事会>

第1回

開催日	令和4年5月25日
議案	令和3年度事業報告書(案)の承認について 令和3年度決算報告書(貸借対照表、収支計算書、貸借対照表・収支計算書の附属明細書及び財産目録)(案)の承認について 就業規則の改正(案)の承認について 育児・介護休業等に関する規則の改正(案)の承認について 定時評議員会の開催(案)の承認について

第2回

開催日	令和5年2月16日
議案	鹿島療育園男子トイレ改修工事の設計監理業務委託に係る随意契約(案)の承認について 給与規程改正(案)の承認について 臨時職員等就業規則改正(案)の承認について

第3回

開催日	令和5年3月16日
議案	令和4年度法人本部拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 令和4年度鹿島療育園拠点区分第1次資金収支補正予算内訳表(案)の承認について 役員等賠償責任保険の契約(案)の承認について 賞与引当金の計上(案)の承認について 運営規程改正(案)の承認について 職務に専念する義務の特例に関する規程改正(案)の承認について 兼職制限の許可基準等に関する規程改正(案)の承認について 情報公開規程改正(案)の承認について 個人情報保護規程改正(案)の承認について 令和5年度事業計画書(案)の承認について 令和5年度資金収支予算内訳表(案)の承認について 鹿島療育園清掃業務委託に係る入札(案)の承認について 障害者総合支援法対応ソフト整備に係る入札(案)の承認について 評議員会の開催(案)の承認について

VI 行事实績（令和4年度）

月	日	行 事 名	摘 要
4月	7日	不在者投票	有田町長及び有田町議選挙、武雄市議選挙
4月	16日	家族会役員会	事業報告、計画等
4月	20日	不在者投票	鹿島市長及び鹿島市議補欠選挙、
4月	26日	利用者健康診断	血液検査、心電図、前立腺がん検査、胸部レントゲン
5月	15日	家族会総会	書面審議（事業報告・計画等）
5月	25日	ランチパーティ	セレクトメニュー、スライドショー
5月	30日	地域との交流会	施設概要及び事業計画等の説明
6月	1日	健康教室	病気に対する意識向上について
6月	22日	安全祈願祭	安全祈願
7月	6日	不在者投票	参議院議員通常選挙
9月	7日	秋祭り	過去の秋祭り映像鑑賞、会食、お楽しみ抽選会
9月	14日	健康教室	病気に対する意識向上について
10月	3日～10月18日	利用者健康診断	尿検査
10月	28日	介護者教室	アンガーマネジメントについて
11月	8日～11月29日	ドライブ	西九州新幹線見学及びドライブ
11月	11日	追悼会	物故者の供養
12月	7日	忘年会	会食
12月	7日	不在者投票	佐賀県知事選挙
12月	14日	福祉講演会	浄林寺日野恵一住職「幸せのおすそわけ」
12月	17日～12月25日	佐賀県障がい者文化芸術作品展	作品 13点出展
12月	23日	クリスマス会	飾り付け、会食
1月	10日～1月31日	初詣	琴路神社
3月	27日・3月28日	ドライブ	庭木ダム周辺の桜の花見（車中見学）

VII ボランティアの受入状況（令和4年度）

月	日	団 体 名	摘 要
随時	(年5回)	鹿島市婦人ボランティア五五会	施設周辺の清掃、花紙作製、車椅子清掃
随時	(年4回)	押し花	押花の作製支援
6月	5日	フラワーアレンジを楽しむ会	フラワーアレンジメント
7月	25日	楠風会さくら会	花紙作製
5月	25日・9月28日	職員のボランティア活動	地域の清掃（除草作業・ゴミ拾い）

VIII 職員配置の状況

区分		施設長	事務長	生活相談員	看護師	生活支援員	事務員	栄養士	調理員	合計
令和3年度末職員数		1人	1人	3人	4人	30人	3人	3人	5人	50人
うち、臨時職員					(1人)	(9人)			(1人)	(11人)
期中	増加数	0人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	2人
	うち、臨時職員					(1人)				(1人)
	減少数	0人	0人	0人	0人	3人	0人	0人	1人	4人
	うち、臨時職員					(2人)			(1人)	(3人)
令和4年度末職員数		1人	1人	3人	4人	29人	3人	3人	4人	48人
うち、臨時職員					(1人)	(8人)				(9人)

IX 利用者の状況

【入所者】

(1) 出身地別利用状況(令和4年度)

区分	佐賀市	伊万里市	武雄市	鹿島市	小城市	嬉野市	玄海町	有田町	大町	江北町	白石町	太良町	大村市	大分市	合計
男	4人	1人	6人	6人 ①	2人	3人 ②	1人	1人	1人	0人	2人	1人	1人	1人	30人 ③
女	0人	1人	2人	5人	0人	4人	0人	1人	1人	1人	2人	0人 ①	0人	0人	17人 ①
計	4人	2人	8人	11人 ①	2人	7人 ②	1人	2人	2人	1人	4人	1人 ①	1人	1人	47人 ④

※○印は退園者数

(2) 月別在園者の状況(令和4年度)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初利用者数		45人	45人	45人	46人	45人	45人	45人	44人	44人	44人	44人	45人	
入園者数		0人	1人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	2人	6人
退園者数		0人	1人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	4人
月末利用者数		45人	45人	46人	45人	45人	45人	44人	44人	44人	44人	45人	47人	

(3) 年齢構成表

令和5年3月31日現在

区分	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	合計	最小	最高	平均
	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	以上				
男	0人	0人	0人	4人	6人	13人	6人	1人	30人	44才	83才	62.6才
女	0人	0人	0人	0人	4人	8人	3人	2人	17人	52才	91才	66.4才
計	0人	0人	0人	4人	10人	21人	9人	3人	47人			63.9才

(4) 在所期間の状況

性別	期間	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上	15年以上	計	1人当り 平均 在所期間
	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満			
男	5人	4人	0人	5人	3人	13人	30人	13年 8月
女	1人	3人	1人	4人	2人	6人	17人	14年 1月
計	6人	7人	1人	9人	5人	19人	47人	13年 9月

(5) 障害原因別

障害原因	事 故				疾 病			合計 ① + ②
	交 通 事 故	労 働 災 害	そ の 他 の 事 故	小 計 ①	先 天 性 の 疾 病	後 天 性 の 疾 病	小 計 ②	
男	3	2	5	10	9	11	20	30
女	0	0	0	0	14	3	17	17
計	3	2	5	10	23	14	37	47

(6) 病症類別

属性	疾病・原疾患	主 たる 病 症 類 ・ 原 疾 患										前 年 度 合 計	
		脳 性 マ ヒ	脊 髄 損 傷 頸 髄 損 傷	胸 腰 髄 損 傷	小 計	脊 髄 マ ヒ	脳 血 管 障 害 後 遺 症	頭 部 外 傷 後 遺 症	リ ウ マ チ	そ の 他 の 難 病	そ の 他 の 疾 病		合 計
性別	男性	8	5	1	6	0	6	3	0	2	5	30	28
	女性	11	0	0	0	0	2	0	0	0	4	17	17
	合計	19	5	1	6	0	8	3	0	2	9	47	45
障害支援区分	区分6	14	4	1	5	0	5	2	0	2	5	33	31
	区分5	2	1	0	1	0	2	0	0	0	3	8	10
	区分4	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	4	2
	区分3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	19	5	1	6	0	8	3	0	2	9	47	45

【通所者】

(1) 出身地別利用状況

区分	鹿島市	白石町
男	1人	1人
女	1人	0人
計	2人	1人

【短期入所者】

(1) 出身地別利用契約状況

区分	鹿島市	白石町
男	1人	2人
女	1人	0人
計	2人	2人

X 利用者の日課

7:00	起床・洗面
8:15	朝食 健康チェック 整理整頓 ラジオ体操
9:00	入浴 機能回復訓練 サークル活動 行事
12:00	昼食
14:00	入浴 自由時間
17:15	夕食 自由時間 娯楽時間
20:00	就寝準備
21:30	消灯

X I 利用者の通院状況

	内 科	外 科	精 神 科	眼 科	耳 鼻 科	歯 科	訪 問 歯 科	皮 膚 科※	婦 人 科	泌 尿 器 科	救 急 外 来 等	そ の 他	計
4月	13人	10人	9人	1人	2人	0人	39人	5人	0人	11人	0人	1人	91人
5月	10人	12人	13人	2人	2人	0人	36人	5人	0人	8人	1人	5人	94人
6月	11人	17人	8人	1人	2人	0人	36人	5人	0人	9人	0人	5人	94人
7月	5人	14人	10人	3人	1人	0人	31人	7人	0人	10人	0人	7人	88人
8月	11人	10人	9人	3人	0人	0人	41人	5人	0人	9人	1人	4人	93人
9月	22人	7人	11人	5人	1人	0人	28人	11人	0人	12人	1人	3人	101人
10月	40人	13人	13人	1人	0人	0人	37人	8人	0人	9人	0人	0人	121人
11月	10人	7人	12人	2人	1人	0人	35人	5人	0人	3人	1人	2人	78人
12月	6人	8人	14人	4人	1人	0人	22人	2人	0人	10人	0人	7人	74人
1月	11人	9人	11人	1人	1人	0人	42人	8人	0人	7人	2人	3人	95人
2月	6人	8人	11人	1人	0人	0人	33人	10人	0人	10人	1人	5人	85人
3月	14人	7人	20人	5人	1人	0人	34人	3人	0人	11人	1人	3人	99人
計	159人	122人	141人	29人	12人	0人	414人	74人	0人	109人	8人	45人	1,113人

※ 皮膚科はオンライン受診者18人を含む

前年度実績

計	123人	146人	41人	33人	14人	1人	403人	127人	1人	134人		3人	1,026人
---	------	------	-----	-----	-----	----	------	------	----	------	--	----	--------

X II 苦情解決

苦情受付件数

	職員に関する こと	利用者に関する こと	施設に関する こと	その他	計
4年 4月	2	0	0	0	2
5月	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0
8月	0	2	0	0	2
9月	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0
11月	1	0	0	0	1
12月	0	0	0	0	0
5年 1月	0	0	0	0	0
2月	1	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0
計	4	2	0	0	6

前年度件数

計	4	0	0	0	4
---	---	---	---	---	---

X III 事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。